

第二章 行事の大要

第一節 記念式及祝賀會（第一日）

一、記念式

式場に充てられた雨天體操場の四周には紅白の幔幕が張り廻され、來賓一五〇、父兄二〇〇、同窓會員一五〇、生徒代表一〇〇、計六五〇人分の椅子ベンチが動きのとれぬ迄にぎつしり並んで萬端の準備成る。然るに朝來生憎のひどい雨であつたが爲非常な混雜を呈すると共に計劃にくるひを生じて遺憾千萬であつた。かくて午前十時頃より夫々入場。

これより先き白根本縣知事は明石縣屬と共に十時二十三分着の列車で來柏、全生徒並に卒業生の出迎に會釋しつゝ自動車で到着された。やがて十一時垂んとして漸く舉式。

式次第

- | | |
|---------------|--------|
| 一、職員、卒業生、生徒入場 | 二、來賓入場 |
| 三、長官臨場 | 四、一同敬禮 |

五、舉式の辭

七、勅語奉讀

九、學校長式辭

一一、來賓祝辭

一三、生徒總代祝辭

一五、校歌合唱

一七、一同敬禮

六、國歌合唱

八、勅語奉答の歌

一〇、長官告辭

一二、卒業生總代祝辭

一四、十年以上勤續職員謝恩

一六、閉式の辭

一八、長官以下順次退場

式は極めて嚴肅裡に進行し、更に十年以上勤續職員謝恩式に移り校長先生は角田先生を招き左の感謝狀の披露と共に記念品目錄（金一封）を渡され、同先生の謝辭あり、一同校歌の合唱を終つて十二時半目出度終了した。

來賓祝辭の中近藤先生が其の溫容を壇上に運ばれて挨拶をされた時、今は母ともなれる卒業生が昔を偲んで涙ぐんだ者のあつたのは美はしい光景であつた。又斯かる催しに知事自ら臨席されることは極めて稀で、誠に本校の光榮であつた。

猶來賓諸氏の數多い祝辭の大半が時間の關係上朗讀を見合せられたのは、返す／＼遺憾至極であり且申譯のない次第であつた。

感謝狀

教諭 角 田 三 宮 殿

氏ハ大正九年十月本校ニ就任セラル、ヤ裁縫又ハ家事作法等ヲ擔任セラレ懇切熱心ニ教授シ又久シク舍監ヲ兼ネテ舍生ノ指導誘掖ニ當リ今ヤ勤績十有二年本校教育ノ爲ニ盡瘁セラル、所甚大ナリ依テ創立三十周年記念ノ式典ニ際シ金豊封ヲ贈リ聊感謝ノ意ヲ表ス

昭和七年五月八日 兵庫縣立柏原高等女學校松柏會長從六位 津 倉 亮 一

來賓には、白根本縣知事、明石縣屬、如衆議院議員、衣川、村上兩縣會議員、近藤前校長、田艇吉翁、宮垣町長、三木柏原警察署長、桂柏原稅務署長、島山柏原病院長、中島本郡町村長會長、植木柏原中長、安藤鳳鳴中長、林縣立第一神戸高女長、賀須井縣立第二神戸高女長、大野加古川高女長、町田市立第二神戸高女長、神谷尼崎高女長、和田親和高女長、表甲南高女長、幸田湊川高等實業女長、横山篠山高女長、山鳥西宮高女長、郡内新聞記者を始め縣官二、舊職員六、縣下中等學校長十三、郡内町村長十八、郡内小學校長十六、官衙團體長等來賓父兄二百九十三名、卒業生百六十二名、計四百五十五名。(順序不同)

當日祝辭を賜つた方は次の通りである。

○祝 辭 (順序不同)

(告辭) 兵庫縣知事	白 根 竹 介閣下
衆議院議員	畑 七 右衛門殿
兵庫縣會議員	衣 川 退 藏殿
縣下女子中等學校長代表	林 孝 之 助殿
兵庫縣立第一神戸高等女學校長	植 木 艇 吉殿
兵庫縣立柏原中學校長	田 中 島 敏 之 介殿
校 賓	宮 垣 幸 吉殿
氷上郡町村長會長佐治町長	近 藤 九 市 郎殿
柏 原 町 長	三 木 爲 市 殿
前 校 長	柏 原 警 察 署 長
氷上郡聯合教員會長	長 谷 川 成 器殿
氷上郡聯合婦人會長	長 澤 浪 江殿
元 教 諭 (祝歌)	永 澤 甲 子殿
家庭會總代	能 勢 齋 殿
在校生父兄總代	吉 積 富 治殿
卒業生總代	原 田 一 枝殿

生徒總代
又祝電を寄せられた方は、

片山綾子

○祝電

(順序不同)

氷上郡教育會長	上田 確 郎殿
兵庫縣視學	公江 喜市 郎殿
京都府師範學校長	三國谷 三四 郎殿
兵庫縣會議員(多紀郡)	山川 頼三 郎殿
前代 議士	田 昌 殿
明石女子師範學校長	高 橋 勝 一 殿
兵庫縣立三田高等女學校長	岡 村 直 治 殿
兵庫縣立生野高等女學校長	進 藤 貞 太 郎 殿
兵庫縣小野高等女學校長	赤 木 孝 夫 殿
兵庫縣立伊丹高等女學校長	横 山 賀 前 殿
兵庫縣立佐用農蠶學校長	石 川 達 太 郎 殿
氷上郡遠坂小學校長	畑 上 八 英 殿
元 教諭 大阪市	池 上 は る 殿
同 京都市	竹 下 り よ う 殿

校 賓 須 磨	芦 田 辰 治 殿
卒 業 生 篠山町	西 羅 千 鶴 子 殿
同 神戸市	門 田 芳 子 殿
同 大分縣	吉 尾 田 鶴 子 殿
同 京都府峰山町	行 待 久 子 殿
同 東京市外長崎町	谷 口 正 子 殿
同 沼貫村	本 庄 つ た 殿

以上茲に記して御厚意に對し深甚の謝意を表する。

二、祝賀會

當日の會場である公會堂天井には藤型と五色のモールで皐月の氣配もすがしく、大廣間の正面金屏風をめぐる正面には縣知事を始め知名の方々の席をしつらへ、それと丁字形に、男女來賓六百人の折詰に記念の湯呑と記念エハガキ、松柏通信記念號など所狭い迄に並べられ、十一時半には既に會衆の來場を待つばかりになつて居た。

記念式の終了するや來賓は案内によつて陸續來場一時は非常な混雜をしたが、やがて席定まるや津倉校長の挨拶、白根知事の謝辭があつて開筵、盛會裡に散會したのは午後三時であつた。

本日當町は各戸に町旗を掲げて祝意を表せられ、特に商工會は驛前及び大手通に大アーチを設け

る外、本校門前廣場に屋臺を出して諸藝を演ぜしめ觀衆に興を添へられたが、生憎の降雨で餘興のみは翌日に延期するの止むなきに至つたのは遺憾であつた。

式 辭

茲に本日をして本校創立三十周年記念の式典を擧ぐるに方り多數貴賓並に保證人各位の御參列を辱くし殊に親しく知事閣下の御臨場を仰ぎ得たるは不肖の最も光榮とするのみならず本校の永久に記念すべき榮譽にして感謝措く能はざる所なり。

本校は明治三十六年柏原小學校に町立女學校を併置したるに端を發し四十一年昇格して郡立高等女學校とし翌年現在の位置に移轉し初めて獨自の形態を備へ將來發展すべき素地を固めたり爾來屢々組織及設備に改善を加へ學級數亦倍加し大正十一年に至り縣營に移管せられ爰に確固たる根柢を据え劃期的の發達を成したり超えて十五年不肖當校に赴任するや特に御眞影奉安室の粗惡なるを恐懼したりしが幸にして保證人諸氏亦感を同じくし自ら進んで之が新築を企劃せられ遂に莊嚴華麗なる奉安殿の建立を見一層教育の眞意を明徴する事を得たり以來各方面の整備を期したるが特に教育内容の充實と社會的擴充とは最も努力を致せる所にして今後と雖更に精進せんと欲する所なり。

惟ふに時勢は切實に女性の自覺と活動とを要求し益々其の教育の普及徹底を促進するに至れり本校は斯かる世運に鑑み本校本來の目的と傳統的精神に顧み更に地方的事情を綜合して人格の完成を

理想とし日本の女性の教養に力めつゝあり今や本校年を重ねる事三十卒業生を出すこと一千六百餘洵に松柏學園の綠彌々濃く枝葉茂盛して重陰四隣を蔽ふ然れども内外世相甚だ多事にして吾等の責務益々重大なるを加ふ幸に外大方の援助を得内職員協力一致し粉骨碎心力を竭し以て斯道の進暢國運の隆昌に貢獻せんことを誓ふ聊か所信を陳べ謹みて式辭とす。

昭和七年五月八日

兵庫縣立柏原高等女學校長 從六位

津

倉 亮

一

告 辭

本日茲に兵庫縣立柏原高等女學校の創立三十周年記念の式典を舉行せらるゝに當りまして一言所懐を述べて祝意を表する機會を得ましたることは洵に欣快と致す所であります抑も本校は明治三十六年に柏原町立として創設せられ爾來星霜を経ること三十年其間時勢の進展に伴ひ幾多の變遷を経ましたが常に組織の改善と設備の充實が行はれ職員生徒亦克く攻學修養に努めまして善美なる學風を興し以て今日の隆運を見るに至つたのであります既に今日まで此の學園に於て育まれたる卒業生は一千有餘名に達し家庭に入つては克く家政を治め子女養育の重責に任じて内助の功を擧げ社會に出でゝは各般の實務に携はり文化の進展に寄與し以て我が國中堅婦人としての責務を果しつゝありますこととは眞に邦家の爲慶賀に堪へざる所であります。

翻つて我が國現下の情勢を觀まするに内外共に多事多難でありまして此の難局を打開いたしますには國民の覺醒と奮起に俟たねばなりません。就中青年婦人が克く其の知見を高め世界の大勢を知つて之に善處し其德操を磨いて子女の薰化に膺り以て國民生活の安定並に社會風教の基礎を確立することがその根本對策の一なりと信するのであります。

時たま／＼創立三十周年を迎へ其の校運發展の跡を顧み其の業績に鑒み本校教育精神の顯揚に一意邁進せられますことは洵に意義深きことと存する次第であります。

冀くは職員各位並生徒諸子常に國家社會に對する各自の使命の尊貴と重大なることを自覺し益々修養に勵み校風の發揚を圖り以て本校創立の本旨を達成し國家の期待に副はるゝやう切望に堪へません。

終りに臨み有志各位並同志諸子が從來本校發展の爲めに寄せられたる甚大なる好意に對して深く敬意を表するとともに將來一層の援助を與へらるゝやう希望いたす次第であります。

これを以て告辭といたします。

昭和七年五月八日

兵庫縣知事 從四位勳三等 白 根 竹 介

祝 辭

衆議院議員 畑 七 右 衛 門

本日茲に兵庫縣立柏原高等女學校創立三十周年記念式の舉行せらるゝに當り之に參列して祝意を表するは余の甚だ欣快とする所なり。

本校は夙に柏原町識者の唱道に依り明治三十六年縣下同種の學校に先んじて設立せられ更に四十年郡立を以て高等女學校となし基礎漸く堅く學風亦駁々として擧り遂に郡制廢止と共に縣立に移管され爰に確固不動の根柢を定めて松柏學園の綠彌々濃く今や本校出身の淑女千六百餘名亦盛なりと謂ふべし惟ふに現代の著しく要望する所の一は教養ある女性の堅實なる活動とす吾國は素より家庭を以て社會國家の根本的基礎として之を重視し従つて女性に望むに良妻賢母たるべきことを以てす然れども時勢は更に思想經濟等に於て社會的進出を促進しつゝあり而して之が一般的素養として高等女學校の教育は必須缺くべからざるものと思惟す然らば即ち本校三十年の歴史は更に今後の三十年將又五十年を期待せざるべからず冀くは教職各位並に生徒諸子宜しく縦に本校過去の功績に顧み横に時運の趨勢に鑑み以て本校教育の本旨を達成し國家の隆運に貢獻し彌々益々本校の光輝ある榮譽を發揚せんことを蕪辭を述べて祝辭とす。

縣會議員 衣 川 退 藏

本日茲に縣立柏原高等女學校創立三十周年記念の式典を舉行せらるゝに當り其席に列して祝意を

表するは余の甚だ光榮とする所なり。

抑々本校は明治三十六年柏原町立として創設せられ爾來組織の改善に設備の充實に年と共に進展の蹟著しく殊に最近教育内容の擴充と社會的寄與とに精進せられ今や卒業生を出すこと千六百餘咸能く本校教育の精神を體し中堅婦人として國家の根柢を培養し社會の發達に貢獻せられつゝあるは洵に敬謝に堪へざる所なり惟ふに世運著しく推移し内外頗る多事多難此の時に方り教養ある婦人の力を疾つもの甚だ多し是に於て各々其責任の重大なるを自覺し確固たる識見を備へ貞淑溫良なる婦人の美德を著はし出ては境遇に應じて社會に活躍し入りては家庭生活を改善して郷關の風習を善化し經濟の安定に資し以て昭和日本の國運發展を助成せんことを要望す。

冀くは職員各位並に生徒諸子本校の光輝ある歴史に鑑み益々斯道のために盡瘁せられんことを聊か所懐を述べて祝辭とす。

正六位勳六等 近藤 九市郎

本日茲に縣立柏原高等女學校創立三十周年記念式を舉げられるに當り多數の來賓各位と共に其の席に列り得ますことは洵に喜びに堪へません。

思へば早や三十年の昔になります私が乏しき身を以て職を崇廣校に奉じてみました際本郡多年の望が達せられて柏原中學校の創設を見男子中等教育の機關が實現されましたので地方文化の均衡的

發達を圖るには女子も亦之に應すべきであると考へ先づ明治三十五年に崇廣校内に女子補習科を設置致し更に翌三十六年有志各位と議つて町立女學校を興しましたしか四十名餘りの生徒と四名許りの職員とでさゝやかな開校式を舉げましたやうに記憶致して居ります。

以後數年間は恰かも日露戰役前後の事とて地方經濟の逼迫と又一つには未だ女子教育思想の普及が徹底しなかつた爲學校經營には相當苦心も致しましたが幸當町は勿論郡民各位の熱誠な後援と少數ながら職員卒業生諸氏の涙ぐましいまでの活動によつて牛の歩みの遅いながらに逐年發達を致し遂に大正十一年縣營に移管されるに至つたのであります其の間に於ける迂餘曲折は極めて複雑ではありますが一難來つて基礎固り再難來つて進展を致しました斯々なるべき數々の原因を追想致します時實に多方面に亘つて感謝の念を禁じ得ないのであります。

大正十五年春當校を辭し居を京都に移してより茲に數年再び校門をくゞれば外觀の威容施設の内容亦昔日の比でなく急進の跡實に隔世の感があります之れ全く當事者各位の御努力の結果に外ならず誠に慶賀の至に堪へません夫れ歴史は一朝にして成らず蒼然たる古色を帯びて而も日新の歩みを續けるこそ學校擁護の根本ではありますまいか卒業生諸子在校生諸子願くは内外歩を一にして益々學を修め徳を磨き樞要の婦人として社會の期待に副ひ以て有終の美を遂げられる様切望致す次第であります。

本日の盛典に列し右顧左眄懐舊の情に堪へず一言を述べて祝詞と致します。

田 艇 吉

本日縣立柏原高等女學校創立三十周年記念の盛式を挙げられ艇吉も亦席末に陪するを得たるは誠に光榮とする所なり。

抑本校は近藤前校長崇廣小學校長在職中其附屬として女學校を創設せられしに基き其後幾多の星霜を経郡立又縣立に昇格し校舎も移轉或は増設等漸次向上發展し大正十五年津倉現校長近藤君の後を承け拮据盡瘁今日の盛況を見記念の盛典を行はるゝに至りし事は實に欣喜敬賀に堪へず前後兩校長を始め職員其外關係者諸賢の偉大なる功勞を深く感謝し且つ敬意を表する所なり將來諸賢の甚大なる力を以て益々進歩隆興 多數の良妻賢母を養成せられ又學生諸子に於ても愈奮勵體格の發達を始め智識並に道徳心を涵養せられ貞淑なる人格者と成られん事を偏に希望する所なり聊か蕪辭を呈し謹で祝意を表す。

○ 兵庫縣立第一神戸高等女學校長 林 端

本日兵庫縣立柏原高等女學校の創立第三十周年記念式典を挙げさせられるに當り縣下女子中等學校を代表して祝詞を申し上げますことは私の最も光榮とする所であります。

御校の創立は明治三十五年四月柏原町立尋常高等小學校女子補習科の設置に始まる當時我國女子

中等教育は僅に其曙光を認むるに過ぎなかつたのであります。が夙に此所に着眼せられ今日の基礎を建てられたる先見の明敬服の外ありません。其後町立柏原女學校、郡立高等女學校郡立實科高等女學校更に再び高等女學校に復し大正十一年三月兵庫縣に移管せられるまで數次の變遷を経て規模を擴張し設備を充實せられ其間學校當時者並に郡及町の當局が如何に地方女子教育振興の爲め苦心努力せられたかを窺ふに難からざるものありと信じ敬意を表する次第であります。

御校教育の綱領によれば生徒をして先づ自ら體驗せしめ其れによりて興味を喚起し進んで自ら工夫創作し後日世に出で、處世の萬事を自律的に處理するの品性と能力とを啓培せしめられるにありと承知致します。今や卒業生の數千六百有餘の多きに達し此等卒業生はこの立派な校風に薰陶せられ清新なる良妻賢母として女子の使命を盡し以て地方文化の發展又は家庭教育の振興に貢献せられつあるを思ひ御校が年と共に著々と功績を挙げられました事を祝福致します。此れ御校創立以來學校長の劃策經營宜しきによると又職員各位の協同一致して終始一貫理想の下に於て盡瘁せられたる効果にして感謝に堪へぬ次第であります。

生徒諸子は此の光輝ある學校に學び記念すべき三十周年を迎へられたことは慶賀の至りでありませす。將來益々御校の名を揚げ校運の隆昌を期するは諸子の責任であることを自覺せられて折角自重自愛せられんことを祈ります。

今日女子の任務は各種の方面に亘りて其範圍が廣くなり國家社會は女子の活動を要求致します併しながら眞に此要求に副ひ國家社會の發展に貢献し得るものは必ず教養ある女子の努力に俟たねばなりません諸子の前途は洵に洋々たるものでありますから今に於て充分の修養を積み他日の大成を期せられんことを希望して止みません。

終りに臨み御校の前途を祝福致します。

○ 兵庫縣立柏原中學校長 從六位 植木孝之助

當校が創立三十周年を迎へ茲に盛大なる記念の式典を舉行し且つ種々の事業を行はれる事は誠に慶賀の至に存じます抑々三十年以前の我が國の文化は今日の其れに比較すれば實に霄壤の差があるのであります之を近く當地方に就き考察するも之れ亦顯著なる進展の跡を観る事が出来るのであります殊に女子教育に於て當地方が縣下に殆んど其の魁を爲したとも云ひ得る事は洵に痛快事であり又幸慶至極となすべきであります輓近世界の大勢より見れば活社會への婦人の進出は實に目醒しきものあり而して我が帝國の現状は眞に教養ある中堅婦人の活躍に俟つもの愈々多きを加ふるのであります茲に於てか本校の如きは一層其の存在の意義を深めるものであり又世間の期待が増大する理であります。

本校は開校の當初に於て又其の後の經營に於て局外者の想察し能ざる多大の辛酸苦難が有つた事

と存じますが幸に當事者其人を得幾多の試練に堪へ得て逐年内容充實し遂に今日の隆盛を見るに至つた事は實に當地方の爲のみならず本邦教育の爲め洵に慶賀すべき事であります今や既に三十の星霜を閱し之より愈々大なる活動期に入るのでありますが當事者諸民の奮勵努力により光輝燦然たる良果を結ぶ事は程近きことであらうと存じます。

茲に本日の盛典に列し益々校運の隆昌を祈り一言祝辭を述べる次第であります。

○ 氷上町村長會長 佐治町長 中島敏之介

本日を通し茲に縣立柏原高等女學校創立三十周年記念式を舉行せらるゝに當り小職亦其の席末に列するを得たるは寔に欣幸とする所なり當校は明治三十六年の創立に係ると雖も搖籃は更に其の前に溯ると云ふ當時女子教育の未だ振はざる時前校長近藤九市郎氏夙に其の必要を認めて女學校の創設を劃し當町並に本郡有識者之を援けて始めて町立女學校を興す爾來學校當事者の經營宜しきを得たると郡民各位並びに縣當局の眞摯なる援助とに依り町立より郡立に郡立より縣立に進み内容外觀相並びて一路進展を辿り津倉現校長に至り更に諸般の整備を加へて以て今日の昌運を致す誠に旺りと謂ふべし而して此間小職も亦微力を以て時に關與せし事無きにあらず今日の隆昌を見て特に欣快禁ぜざるものあるなり。

古人は云へり山高きを以て貴からず木あるを以て貴しとなすと夫れ創設以來三十の星霜を重ね之

れ山の高きものにあらずや此間學窓を出で社會の中堅婦人となりて活動せらるゝ人既に千數百を數ふ此れ木の美なるものにあらずや山高くして木美なり亦何をか加へん。

惟ふに輓近婦人の社會的地位の向上と共に世の期待する所亦昔日の比に非ず青年子女須らく學徳を修め身體を練り家庭に入つては良妻賢母となり社會に出でゝは識見ある婦人として女子の天分を發揮し社會國家に貢獻するの覺悟なかるべからず學を本校に受けらるゝ諸子は宜しく思を茲に致し専心修養を積み婦徳を磨き光輝ある本校の歴史をして愈々光あらしめられん事を切望して止まざるなり。

本日の盛典に當り欣快措く能はず一言蕪辭を述べて祝辭とす。

○ 柏原町長 宮 垣 幸 吉

萬象躍動の候茲に本日をして縣立柏原高等女學校創立三十年の式典を舉行せられ洵に慶賀に堪へず余亦此の盛典に列するは衷心喜びとする所なり。

抑々教育の業たる國家の重事にして一日も苟且に附すべからず明治の新政成るや早くも學制を發布し其基礎を確立せらる然れども諸政匆忙其の緒に就けるもの多くして未だ完備するに至らず特に舊慣は女子教育の進展を妨ぐることに大にして明治三十年を過ぐる數年に及ぶも縣下女子教育機關猶寥々たりき況や僻陬の地に於てをや時に近藤九市郎氏達眼よく將來を洞察し明治三十六年町立女學

校を創設せらる微なりと雖も大河も其の源を潺湲たる溪流に發するに非ずや爾來同氏は日夜苦慮萬狀一意其の發展に努め歴代教職員亦よく之を援け本郡有志並に縣當局の後援と相俟つて校運は年月に隆昌に赴きたり町立より郡立を経て縣營に移管せられ校舍校地の擴張はしきりに行はれ其昔病院たりし狹隘の地今や鬱然たる一大學園を成すに至る現校長津倉亮一氏之を繼承せられ更に内外の設備を整へ施設を施し茲に權威ある女子中等學校の完成を告ぐ其の間年を閲すること三十年今其の跡を顧る時奇しくも亦喜ばしき限りならずや況や學窓を出でられし人方に千五百を數へ何れも社會の中樞に立つて活動せらるゝをや。

然れども光榮ある歴史を繼承する者の任務は重し本校に學ばるゝの諸子夫れ自重を加へ専心婦徳の修養を積みて怠らず千數百の卒業生諸氏と手を携へて進まるゝ時將來は磐石の如く光輝は愈々加はらん今や世相險惡にして國歩艱難に際す諸氏の奮起を俟つこと大なり諸氏夫れ勉められよ。

茲に本日の式典に列し欣喜措く能はず聊か蕪辭を呈して祝辭とす。

○ 柏原警察署長 勳八等 三 木 爲 市

本日の吉辰を卜し柏原高等女學校創立三十周年祝典を舉行さるゝに當り不肖之の盛典に參列する事を得たるは欣幸とする處なり。

回顧するに當校は明治三十六年時の校長近藤九市郎先生が縣下に率先して創立されてより茲に星

霜を閲すること三十爾來諸先生の奮闘と地方有志の援助に依り其の間幾多の困難を排除し逐次校舎の増設を完備し一面町立より累昇して縣立となり確固たる基礎の上に立つて女子育英の爲輝かしき發展を遂げ大正十五年津倉現校長就任さるゝや先生は達識を以て文運の將來と世相の推移に鑑み女子教育の根幹を確立され實踐躬行大に努力されたる結果今日の隆昌を見るに至れり而して其の間社會に數多の人材を送り之等の人々は健實なる校風に陶冶されたる人格を實社會に活用し内に在りては良妻賢母となり外に在りては新時代婦人の中堅となり夫れ〳〵活躍しつゝあることは先生の熱誠以て薰陶に専念されたる賜なりと信す今や我國は思想に經濟に幾多の艱難に直面するの秋國家の賢婦人を待望するや寔に切なるものあり光輝ある歴史と美しき校風を具備する柏原高等女學校の發展せむことを冀ふと共に益々其の眞價を發揚し時代の要求する模範女性を實社會に送り出されん事を望む一言以て祝辭となす。

○ 氷上郡聯合教員會長 長谷川 成器

本日兵庫縣立柏原高等女學校創立三十周年記念の祝典を舉行せらるゝに方り不肖其の席末に列して祝意を陳ぶる事を得たるは深く光榮とする所なり夫れ教育は國運進展の基にして社會文化の源泉たりされば一國の文明は男女等しく圓滿なる發達を遂げ各完全に其の天分を盡すに在り而して婦人をして其の性能を完全に發達せしむるには一に女子教育の效果に俟たさるべからず此の故を以て明

治五年學制頒布せらるゝや我が女子教育の途大に開け本校亦明治三十六年郡内最高女子教育機關として創設せらる爾來年を閲すること茲に三十星霜幾多の難關と幾多の變遷とを経て育英薰化の實愈愈舉り卒業生を送ること實に千六百有餘名今や校風燦として此盛運を視る國家の一大慶事と謂ふべし然りと雖も我が國現下の情勢は内外極めて多端國運の前途に洵憂慮に堪へざるものあり冀くば本校職員生徒各位其の責務の重大性に鑑み夙夜教養研修に一層専念力行せられ此光輝ある學風をして益々顯揚されんことを聊か所懐を述べて祝辭に代ふ。

○ 祝 永澤 甲子

三十年の若木の松に緑そへて
いや茂るらむ千代も八千代も

○ 氷上郡聯合婦人會長 長澤 浪江

若葉のみどり野に山に松の新芽はみづく〳〵のび立てるはつ夏本日の嘉辰を卜し縣立柏原高等女學校創立第三十周年の式典をおごそかに擧げさせられますにあたり本郡聯合婦人會を代表して不肖私もこの盛典に參列し無上の光榮をよるこぶでございます。
今や女子教育は國運の進展にともなふ一大必要とみとめられますの折この光輝ある松柏學園に學ぶ吾娘らの幸を思ふ時母としての喜び又幸福これにまさるものはありませむ。

創立茲に三十周年のたふとき歴史はよみ返され校運の隆盛は誠に慶賀に堪へられませんが、入船山の麓松のみどりのいや深く校風のうるはしき輝きをいのり津倉校長先生始め諸先生方のあつき御盡力を謝し併せて御健康を祈り謹みて茲に御祝詞を申上ります。

○ 家庭會總代 能 勢 齋

近世文化の興隆に伴うて女子教育の必要大に逼り女子教育の必要は文學技藝品性の陶冶に俟つるは勿論なるも一面體軀の強壯體育の改善に要求する者あるをも忘るべからず視よ歐洲大戰以來女子の處世上方針に於て大なる變遷を來し從來の因循姑息の界を脱して技藝に勞働に立法的精神の涵養に總て社會萬般の事業に活躍し敢て男子に異らざる傾向となりし事は均しく吾人の認むる處にして若し一朝國家に事ありて國防第一線に立つをも辭せざるの概を示せり當路も又見る處ありて執筆其宜しきを得教育指導者も是に準據して國家教育の本源確立せる事は國民の齊しく欣幸とする所なり今や本校創立三十周年の祝典を擧げられ一千六百の卒業生を數へ又出藍の譽ある生徒を出し得るに至りしは寔に地方人民の幸福にして聖代文化教育恩澤の偉大なるに感謝せずんばあらず此間本校職員先生の辛苦經營指導感化の勞や洵に思ふべきなり殊に前任校長近藤先生の終始一貫本校の爲に盡瘁せられたる功績は云ふを俟たず次で現津倉校長先生に至りては克く前任校長の教育方針を尊重せられ又社會の趨勢に順應して現代教育の粹を抜き蒙を啓き古を温ね新しきを需め日夜孜々として

刻苦精勵設備に指導に人格養成に體力増進に全力を注がれ將に一二教室の不備を除けば敢て都市の學校に恥づるなきの經營を見るに至り爲に本校の名聲噴々たる者あり吾人日常子女を托し教養を受くる者は深く歡喜敬慕せる所なり然りと云へ共社會は駸々乎として進み本日のはは明日の非となり昨日の斬新今日の古びとなるの慊なしとせず夫れ臚を得て蜀を望むは人情の常なり願くば向後倍々隆運に棹して完備の域に達せん事を本日此盛典に臨んで聊所感を述べて祝辭となす。

○ 父兄有志 吉 積 富 治

薰風五月我が最も敬愛せる兵庫縣立柏原高等女學校の創立三十周年記念式典を擧げらるゝ事は今現に我等の子女が此の庭に教へられつゝある父兄として誠に慶賀に堪へぬ次第で歡喜に胸の躍るを禁じ得ないのであります殊に私は此の校が生れ出でゝ悩み多かりし事共を記憶して居りまするがために一層感慨の切なるものがあります氷上郡に於ける三十年前と言へば女子教育の状態は寔に幼稚なもので父兄の考へ方も甚だ淺狭なものであり女子自らもさうであつたが時の推移と夫々の當局者が種々なる苦難に耐へ試練に試練を重ね世を指導しつゝ努力の連續が遂に今日の隆盛を齎らしたのであります私はそれを願ふ時誠に涙ぐましく只々感謝の念に堪へぬのであります幸にも當校又曩に女子教育に造詣最も深く熱と愛とに燃へた津倉校長を迎へ外諸先生の眞摯且懇切な教化と努力に據つて校運益々進み吾々の子女は大に恵まれて居るのであります今や時勢の進歩は人生の複雑さを

加へ婦人の任務所世の困難を増して來た折から男子と共に手を携へて家の爲國の爲に大に盡さねばならぬと思ふのであります。それには女子として相當の教育を受けて女らしく優雅と聰明と慈愛に富んださうして勤勉を好み深味と落着きのある眞の文化婦人たるべき覺悟を持たねばなりません。私は今の世相を眺めた時當校の採つて居られる人格主義に基礎を置いて徳操と叡知を與へ將來良妻賢母たるべき教育方針に最も共鳴する處であつて本校が茲に目出度創立三十周年を迎へ盛大なる今日の式典を擧げられた事を繰返して衷心から祝福致します。さうして今後猶一層設備の完成を期せられ大に其の聲名を輝して女子教育の爲貢獻せられむ事を祈ります。

卒業生總代 原 田 一 枝

野山の若緑も愈々鮮やかに物皆生氣に満ちくる時此處に本日の嘉辰を卜して母校創立三十周年の式典を擧行せらるゝに當り私共も其の盛典に參列し得ます事は誠に無上の光榮に存じます。

回顧しますれば當校は明治卅五年の創立にかゝり當時崇廣小學校長でありました近藤九市郎先生の御盡瘁の結果によるのでございます。先生は夙に御心を女子教育に留められ縣下各地に卒先して崇廣小學校中に補習科を附設せられました。續いて翌年町立女學校と改稱し茲に目出度き發展の首途を祝つたので座います。爾來學校長並に諸先生方の非常な御奮闘と地方有志者の御後援により幾多の困難を排除し逐次校舎の増設施設の完備を遂げ郡立となり縣立に進み確固たる基礎の上に愈々發展の

輝かしい光に接したのでございます。大正十五年近藤校長先生に代られました津倉現校長先生は達眼よく文運の進展世相の趨勢に伴ひ女子教育の根本を確立實踐大いに努められ遂に今日の隆昌を見るに至りました。今靜かに三十年の昔をかへり見ます時誠に隔世の感じが致し歡喜の外ございません。而もこの間卒業生を出すこと千六百有餘各自健實なる校風を發揚し内にありては良妻賢母となり外に出でゝは地方の女子修養機關の中堅となつて活躍しつゝあることは校長先生並に諸先生各位の賜と信じ茲に謹んで深く感謝いたす次第で御座います。今や我が國は思想經濟外交等の國難多事の秋わが母校の光輝ある歴史と美はしき校風を益々發揚し現代的模範女性となります事がせめてもの報恩の道かと存じます。

いとも輝かしい此盛典に遇ひ聊か蕪辭を述べて祝辭といたします。

生徒總代 片 山 綾 子

物皆生き／＼として光明に滿つる若葉の世界は今喜々として希望の行進を續けて居ります。かうした輝やかしい五月の今日本校に於きましては創立三十周年記念の祝典を擧行され多數貴賓の御臨席を辱うせるこの盛儀に私達は唯よるこびの胸を躍らせるのでございます。

輝やかしい今日の日から靜かに本校の歴史を回顧いたしますれば創立より本日迄その長い三十年間めざましい發展を遂げてまゐりました。

本校がさゝやかながら本郡女子中等教育の黎明として當地に呱呱の聲をあげましたのは明治三十六年でございました。女子教育の充實は叫ばれても何一つ機關のなかつたその頃の設備を思ふにつけても私達は日々心安らかに勉學にいそしむ事の出来る身の幸福をしみく感じるのでございます。その後前校長近藤先生の絶大なる御奮闘や町村の方々の御盡力そして又年々増し行く卒業の皆様方の強い母校愛にはぐままれて今日の隆盛を見るに至つたのでございます。

多くの人々の熱と愛によりまして今日の隆盛を見る事の出来ませぬ私達は肅然として襟を正さずにはゐられません。本校が多難な経路を突破して進んで來ました努力の教として今日の記念式が一層意義深いものと感ぜられます。このめでたい日にあたりまして私達は心から祝福いたしますと共にこの美はしい歴史をしますく光輝あるものと致すやう一層自重して進み行くべき重い責任を感じるのでございます。

簡單でございますが一言御祝の詞を申し上げます。

○「兵庫教育」誌記事（昭和七年六月號）

縣立柏原高等女學校

滿三十年記念式の舉行

「夏近く冷たき風に雨の來し」花謝しもゆる新緑を迎へるか迎へぬかの此の頃を、暑さの變りに冷

たき風が襲ひ來て雨がしとどに降る様は全くの五月雨である。一日置きのこの雨、降りみ降らずみ降る雨になやむとでも云ひたい五月八日、柏原の高等女學校では創立滿三十年の記念式典が舉げられるのに、此の雨ではと氣の毒になつて來るのであつた。町内では此の日こそとことほぐ軒端に出した松ヶ枝の金糸短冊もズブぬれにぬらしてしまふといふ有様、卒業生の美しい人達も美々しく着飾つた晴着もジツトリ五月雨を含むといふ次第で、誠にいたくない姿は見るさへ氣の毒の至りであつた。午前十時頃柏原驛着の汽車で縣下多數の高女校長連と下車すると、あまたの同校卒業生たちも下車せられ、また知事さんも下車せられた。津倉校長が出迎へてゐられた。我々は學校差廻しの自動車に便乗して雨を衝いて學校へ行つたのである。二階の控室に案内を受け十一時になると式場に案内があり一同と共に着席したのである。來賓席には幸にも白根知事を迎へ畑代議士、衣川縣會議員、近藤前校長、縣下の中等學校長、小學校長、教育會長、婦人會長、町村長を初め有力者三百餘名、父兄母姉、同窓生等六七百名參列中々の盛觀であつた。（以下略）

第二節 追悼會、生徒宴會及映畫會（第二日）

一、追 悼 會

本校が創立以來經て來た三十の星霜、それは短い月日ではない。此の間嘗て本校に教鞭を執られ

た舊職員及び此の學び舎に巢立ちながらあたらし青春の望空しく他界された同窓會員が合せて百七十
三名の多數に上つて居る。何れも陰に陽に我が校の發展に寄與せられた人々であるのに今日の目出
度い式典に列せられないのは悲しい極みである。茲に其の靈を慰める爲に重要行事の一として本日
追悼會を營むことにしたのである。

昨日の雨はなごりなく霽れて清々しい氣持である。式場明顯寺の祭壇正面に位牌を安置し別間に
は各位の姓名を記せる軸を掲げ、共に松柏會同窓會員よりの生花供物の間に香の煙がゆらぐ。
これより先き豫て案内せる遺族、來賓は朝來より參集、十時頃に三十九名の參列者を得た。來賓
遺族を夫れ／＼設けの席に請じ、會員生徒亦所定の場所に坐し、圓成寺住職武山魁山師を導師とし
全柏原寺院參列の下に十時半開式。

式次第

- 一、職員卒業生入場
- 二、遺族入場
- 三、導師入場
- 四、祭文朗讀 (會長、卒業生總代、生徒總代)
- 五、讀經
- 六、會長燒香
- 七、遺族順次燒香
- 八、參列者順次燒香 (副會長、元職員、同窓部長、
卒業生、生徒總代)
- 九、導師退場
- 一〇、會長挨拶

- 一一、遺族總代挨拶
- 一二、順次退場

○遺族慰安會 追悼會終了後 於明顯寺

式はいとも靜に嚴修せられ參拜員一同燒香して終了した。式後掛軸の前に立つて今は亡き人達の
面影を偲び思ひ出話のしめやかなさゝやきの幾群に哀愁の色が漂つて居た。

係員によつて直ちに配膳、參列の僧侶、來賓、遺族及び職員會員の代表等六十名が食卓につく。
それより晝餐を終へて一同を劇場映畫會に招待した。

追悼文

茲に本日柏原町内各寺院尊納を煩して物故職員十九名、卒業生百五十四名の爲に遺族諸氏を招き
職員生徒卒業生等多數參集して追悼會を嚴修し度みて諸英靈に語ぐ。

諸氏は本校に職を奉じて多くの子女を薰陶し斯道の爲に盡瘁する所多かりしに不幸中途にして幽
界に籍を轉したり又諸子は妙齡にして螢雪の功を積み漸く業を終へて世に出で將に教養ある中堅婦
人として家庭の爲に將又社會の爲に多望なる前途を遺して可惜花と散る俱に痛悼に堪へざる所なり
嗚呼悲しい哉。

惟ふに櫻花散亂し薰風去來す洵に塵世の流轉究りなく人間の壽命量り難し然れとも天地の悠遠な
るに比すれば人世の長短言ふに足らず余曾て歌うて曰く

人の世の短かしとても嘆かんや

只一瞬の誠に生きん

實に朝に道を聽いて夕に死すとも可なり諸氏竝に諸姉の夭折亦必ずしも悲しむべからざるに似たり
以て冥すべきか。

今本校創立三十周年を記念せんとするに方り聊か庶羞を典し恭しく誠を臻して諸英靈の冥福を祈
る尙くは髣髴として來り饗けよ。

昭和七年五月九日 兵庫縣立柏原高等女學校松柏會長 從六位 津 倉 亮 一

追悼會に臨みて

永 澤 甲 子

なき靈をまつる今日しも思ひ出て

いと露けきわがたもとかな

夢になりと面影見せよよしや身は

あらぬさかひに住みかふるとも

祭 文

卒業生總代 春 木 こ と み

○

年月は流るとすれどたちかへり咲く花は散りぬと見しも春來ればまたもにほへるものをすべて世
はかくぞといにしへ人も言はれき。

よしさらば去りにけむ人も霞をわけ露ふみならして相見る日のなからましやはと朝戸出に空打な
がめ入日さす夕庭の影小暗き迄待つとはすれど中々におぼろげの面影さへも見るによしなし空蟬の
人の世のはかなきを習ひといへどかくばかりあだなるものと思はさりしを今君達は現世に在さずと
はいへ懇に教へ導かせ給ひし師の君の御言葉學び舍に机並べし友どちの御姿事毎に思ひ出の涙なら
ぬはなし今年學び舍の創立三十年記念式を行はせらるゝにあたり呼べど來まさぬ君達の御魂をこゝ
に迎へまつりくさくの供物をささげて慰めまつらんとす。

あはれいにし師の君どちよ希くは我等が志を來りうけられて長しへに我が學び舍の榮を守らせ給
はんことを。

生徒總代 西 垣 芳 枝

○ 若葉薫る五月。

我校は松柏の年々に緑濃やかになつて行くその様に私達の未だ知らぬ頃から今日まで賢實な歩
みを續けて参りましたそして凡て限りない希望と歡喜の中に創立三十周年を迎へたのでございま
す其の間入り代り立ち代りして千六百餘名のお姉様方が皆同じ理想の光をお仰ぎになつて此の學び

やお立ちになりましたそれに果無い運命とは申しながら悲しい物故の爲に此の喜びの日にお出合になれなかつた皆様がお悼しうございます。

會て同じ松柏の母校にお學びになつた皆様と一所にお喜びする事が出来ないのが悲しうございます。すそして今一度皆様を懐しい心の故郷である母校にお招きする事が出来ないのが淋しうございます。でも皆様お喜び下さいませ。

母校は三十年の長い年月先生方や皆様の限りないお努力によつてこんなにも目覺しく發展致したでございます此の名譽ある本校に學びその上此の目出度い日に逢ひます私達は本當に幸でございます。すそして又此の日が幾年かの後にふと思出された時どんなにかなつかしく私達の胸に蘇つて來る事であらう過ぎし三十年を偲びます時過去の光輝ある歴史の上にどんな細かな汚點をも止めぬ様にそして松柏の母校の美しき永遠の發展を期し度いと存じます皆様之魂は末長く私達をお守り下さいまして母校を輝かせて頂き度うございます。

二、生徒宴會

今回の歡びを生徒にも頒つ一案として生徒宴會が正午より體操場に於て賑々しく催された。さゝやかな折詰を前に職員生徒着席、校長先生の挨拶があつて一同楽しく箸をとる。狭さは狭し且お粗

末な薄縁に坐つても楽しみ亦その中に在り、生徒有志の祝賀演説も混つて和氣霽々の中に散會した。

三、映畫會

町内外一般及び生徒への慰安の爲晝夜二回通俗映畫會を催したが何れも大入滿員であつた。猶前記商工會寄贈の屋臺は昨日の雨に引きかへ今日の快晴に人の山を築き暮夜迫る頃迄大賑を呈した。

第三節 音樂會 (第三日)

今日は楽しい音樂會！講師はアルトの名手として全國的に知られた柳兼子女史とて前々から非常な人氣でさしもの廣い公會堂も文字通り立錫の餘地なき有様、豫約團體の席もすでに定刻前に一般會衆を以て溢るゝを如何とも出来ない迄の盛況であつた。

會場は一昨日の宴會そのまゝの裝飾を使用、やがて十時半より大澤芳子嬢の伴奏により美しいメロデーが會場の隅々に迄流れ始める。

かくて豫定の曲目が終り一同陶醉の夢覺めて會場を出たのは十二時近くであつた。

プログラム

一、歌劇「セミラミス」の中より カバティナー……………ロツスイーニ作曲

二、歌 謡

イ、荒城の月……………瀧 廉太郎作曲

ロ、四ツ葉のクロバ……………ロ イ テ ル

ハ、風……………草 川 信

ニ、子供の踊……………信 時 潔

休 憩

三、歌 謡

イ、故郷の廢家……………へ イ ス

ロ、つばめ……………ブルンネル

ハ、春の草、秋の草……………中 島 兼 子

ニ、子守唄……………シ ユー ベ ル ト

四、歌劇カルメンの中より ハベネラ……………ビ ゼ

第四節 講 演 會 (第四日)

今回の記念講演會の講師として我が郷土の誇女子大學校長井上秀子女史を招じ得たのは甚だ光榮とする所である。女史は公私御多忙の中から我が郷民の爲に遙々歸郷して下さつたのである。最初は十日の音樂會と共に行ふ豫定であつたが女史の餘儀ないお差支への爲本日十三日に變更した。

知名の士の講演會場としての劇場はあまりにも狭く周圍の戸を外してやつと座席を増し午後一時より津倉校長の紹介により女史は母の愛情の崇高さより説き起し其の社會國家への擴充が將來女子の考へるべき重心點であることを約二時間に亘つて諄々と説かれ満場の聴衆に多大の感銘を與へられ大成功裡に終了した。

婦人の社會的責任の分擔

日本女子大學校長 井上秀子先生講演

私は只今御紹介にあづかりました井上でございます。十日に參る筈でございましたけれども、いさゝか差支が御座いまして今日出席する事になりました。今度郷里の女學校で三十周年の祝典を擧げさせられる様になりましたのはまことに御同慶の至で御さいます。

私の今日在るのはひとへに郷里の御恩と親の御恩であると云ふ事を深く思ひますにつけては是非ともこの祝典に出席して、お祝申し上げたいと思つて居りました。又私は目下身を女子の教育に置いてゐる關係上、女子教育に對して深い同情を持つて居ります。

斯かる意味に於きまして、わざわざこの郷里へ參りまして、つたない講演をする事になつた譯でございます。本日は遠方からわざわざお出下さつた事を厚く感謝いたします。

さて私の話をお聴き下さるにつきまして、先づ第一に母といふ立場から考へて頂きたうございま

すと申しますのは只今此所にいらつしやる方には現在母であり又將來母たらんとする方々ばかりでございませぬ故、特にこの點に氣を付けてお聴き取り願ひたいと考へたからでございます。

元來女性は生れながらにして母性を植ゑ付けられて居るものでありまして、これは女性の特色とも言ふべきものであります。母性愛は野蠻人も文化人も持つて居るものでありまして、教育せられたが爲に持つて居るものではありません。これは人間ばかりでなく禽獸でも同様であります。

この事は養雞をなさる方々がよく御承知の事と存じます。もし親雞に天の恵であるこの愛情がなかつたとしたら雛鳥は立派に育つ事が出来ないと同様に母親に愛情がなかつたとしたら人類は既に滅亡してゐたでせう。家でもお母さんやお婆あさんが子供を養育する重要な働をするがために子孫は永久に繁昌して行くのであります。

かう云ふ事を考へますと母親に愛情がなくてはならないと云ふ事が痛切に感じられるのでございます。ところがこの様に重要な愛情と云ふものが誰から與へられたと云ふ譯もなしに自然にゆたかに與へられてゐると云ふ以上私達は大いに自覺して善用しなければならぬと思ふのであります。ところが心掛のよくない人は愛情を悪用するのであります。すればそれは姑息な愛となるのであります。甲のみを可愛がつて乙を可愛がらないのはよくない事であります。子供と子供との間に感情のわだかまりが出来ると自然不良となつてしまふのであります。偏した愛を受けた子はその愛が過ぎ

て、あまり愛されすぎて爲すべからざる事をする様になるのであります。これは母たる人が理性を缺いてゐる爲によくはない結果に陥つたからであります。理性を持つてその愛情を合理化すれば美しい立派な結果となります。この立派な結果を利用して子供を奨励しますと志を立て忍耐強くなるのであります。

昔から偉人の母で今申し上げました母性愛を合理的に發露しないものはありません。これを私達は賢母と云ひます。英雄の歴史をしらべてもその背後にはかならず立派な賢母があります。合理的な愛の發露した時子供をして一大決心を起させる様になるのであります。

私達多年教育に關係してゐる者は道に外れたお嬢さんがありました時にはその御両親をよび出して母から訓誡を與へて貰ふのであります。都會の地には赤化運動が流行つてゐて中々思想にかぶれた人が多いのです。この人達はこれが眞理だと信じてゐてどんなに申しましても斷じて志をくつがへさないのであります。母の愛によつてはその非を反省するのであります。この事を考へても母の情のいかに尊く強いかが判ります。女と云ふ者はみな此の愛情を持つて居ります。これは一種の氣高い玉とも云ふべきであります。

一家を持てる婦人は子供の教育に自分を捧げ我を忘れてゐるのです。此の母性の愛が基となつてそれがいろ／＼の方面に表れてゐるのであります。唯これまではそれが家の中だけでよかつたので

すが十九世紀の産業改革以來大變違つて來たのであります。

これ迄は一般に自給自足の生活であつた田舎では今でも自給自足の面影が残つてゐます。自家用の味噌醬油を皆様方の中には造つて居られるのでございませう、これはよほど昔の風が残つてゐるのであります。世界的に見れば産業の改革が行はれてすくなくも衣服の材料は工場がこれを紡ぐのでつまり多くの機織でこしらへてゐるのです。今日では着物を自家で織つてゐる人はないでせうが私達の小さい時は機械を習つたものであります。それが一世紀も二世紀も前の事ではありませぬ。今でも郷里の家には機械や糸繰車が残つて居ります。又袴なども縫つてゐたが今日は縫はなくともデパートメントストアに既成品が出来てゐます。西洋に行つて見ると悉く既成品であります。又すべての人も既成品を用ひます。私の着てゐるこの洋服も既成品であります。私の様な背の低いものでも大人であるから子供の洋服では間に合はない、大人の小さいのでなければいけない、所がデパートへ行けばちやんと既成品が手に入られるのであります。時代は縫ふ事でも織る事でもだん／＼大きな工場に取られて家庭から工場にうつりつゝあります。すこし氣をつけて見ればこの世相がわかると思ひます、例へば食物は皆様は代々自分の家で煮炊きをなさつてゐられるでせうが、都會では料理をせずともちやんとデパートに佃煮でもなんでも料理がして賣つてあり、すぐに家族に

さし上げる様になつて居るのであります。日本でも西洋でも大量生産であつてその方が廉くて見榮えもよろしい。これが時代の風潮であります。

アメリカやヨーロッパに行つて見た時家の掃除をする時雑巾や箒でせずとも會社經營で今日では電氣仕掛で外に機械を置いてゴム管を室内に入れて室の掃除をしてゐる。そこでも一つの商賣をしてゐると云ふ風に食物から衣服から掃除に至るまで大量生産的であります。今に此處でもそんなになつて行くでせう。今その過渡期になつて來てゐるのであります。追々と着物を造る、お掃除をする等と家でするいろ／＼な衣食住に關する仕事は家庭から大きな工場にとられ婦人の手に餘裕を生じてくる、この時婦人はどうしたらよいか、私は婦人自らが考へ出さねばならぬと思ひます。そこで私はその場合に婦人と云ふ者はお互に持つてゐる母性愛を更に大きく考へねばならぬと思ひます。

自分の産んだ子供を世話してゐたら自分の責任はそれで果されると思つてゐますが、今日では自分の産んだ子供以外にも世話しなければならぬ様になつた。例へば小學校の先生や女學校の先生は自分の産んだ子の愛情を擴大して町村の子を育てるこれが先生の立場であります。又自分の子供を丈夫に育てたいと云ふ愛情を擴大すると運動場が狭まれば子供の健康の爲に母親達は運動場を廣くする様に奔走します。或は又牛乳を飲んでゐる子供によい牛乳をのませる事は大切であります。

腐敗した乳を配達したとしたなら自分の子供の事だけではなく他の人々の上にも考へが集り同盟してお互が組合をこしらへて良い牛乳を配達する、それらがだん／＼擴つて世の悪事を未然に防ぐといった様なものであります。

東京では十五日から「ウララ」と云ふ婦人用の煙草が發賣されてゐるけれ共婦人の手にスバ／＼と吸はれますと日本はどうでせう。煙草にはニコチンがあるから出産率が減じ母たる職責を全うする事が出来ないから我々は眞向から反對するのですが、政府は反省して呉れません。政府は煙草を吸ふ婦人があるから賣出したので吸はない人にまで獎勵するつもりではないと辯解してゐます。東京のある女學校の生徒が自發的に「煙草を賣る事は反對だ。しかしそれによつて政府の收入が減ずる様な事があれば我々はそれを辨償しよう」と決議したのでございます。それで私等もあく迄これに反對の氣勢を上げてゐるのであります。西洋風の生かじりがは入つて來て風儀上衛生上よくない事を眞似する事は女性擁護の立場から反對しなければなりません。

それから又お酒について、我々は二十五才迄の禁酒法案を議會に通さうとするのであります。今朝汽車の中で酒に酔つた人が奥さんの事を云つてゐるのを聞いて大變怪しからぬと思ひました。又道徳的立場からも憤慨しました。それを見ても自分の子供に酒を飲ましたくないと思ひます。

地方から青年が東京へ出て來ますと、東京にはカフェーが澤山ありまして、あまり面白くもないお酒を青年に與へてゐる事を見ます時は私等は憤慨に堪へぬ次第でございます。それを見ても自分の子供に酒を飲ましたくないと思ひます。

この中には御主人がお酒を飲まれる爲に随分困つていらつしやる奥さんがあるでございませう。これは誠に同情に堪へません。夫はもう癖がついてしまつてゐるのですから仕方がありませんがせめて息子だけにはそんな事をさせたくないといふ事は皆様方も私と御同感であらうと思ひます。東京の或高等學校の寄宿舎では、酒の飲めないものに無理に飲ませる學生の仲間があります。それで二十五才の禁酒法案が必要となつて來るのであります。この年までは思想もまだ決まりません。二十五才以上になれば自分の勝手に飲まうと思へば飲み、飲まない方がいゝと思へば飲みません。母としては二十五才までは酒に近づけない様にしないではなりません。今は二十才迄であるが二十五才迄の禁酒を國の法律で定めてほしいと希望して居ります。毎年これには骨折つてゐるのであります。金の力によつて酒屋が反對するので中々通りません。これには不賛成の方はないと思ひます。議會が開かれれば又骨を折るつもりです。これも母心を社會にまで擴大したものであります。

故にいろ／＼の事が母と云ふ立場から社會的活動する様にせねばなりません。婦人の會はつまり母心の集合であります。婦人會や處女會などの様に澤山の會は母心をもつと擴大して地方の學校を

よくしたり、いろ／＼の働をなさつて居られる事と信じて居ますがもつと／＼大きく強く働かせねばなりません。その活動は母が家にあつて子供を養育することの擴大であると考へても間違はありません。東京と關西では男女の關係夫婦の道德などの關係が餘程變つて居ります。東京で一夫一婦で男女の關係がだん／＼淨化しつゝあります。關西ではその男女關係の觀念が低いやうに思はれる。それは女性の自覺と教育が少い爲であります。さうしても男女は一夫一婦でなければなりません。女に貞操を強いるならば男子も正しくしなければなりません。今日法律では男は純潔でなくてもよいと云ふ様になつてゐるが、女がもつと自覺して起たなければなりません。貞操を全うするのは男女とも同じでなくてはならぬ。こんな所に將來の女子として考へなければならぬ問題がひそんで居るのであります。

又女學校には今年から公民科を設けられる事になりました。公民科を置くと云ふ事は女子が公民的に取扱はれ、参政權が與へられると云ふ事の瀬戸際に近づきつゝあると云ふ證據であります。公民權を得ると云ふ事は婦人が町村の行政に参加すると云ふ機會を得るのであります。私は町村の行政は婦人の方が關係が多いと思ひます。女子の天性から考へますとそんな方面からその資格を得るといふ事は當然の事で遠からず議會を通る事と思ひます。公民權を主張するのはこれも母といふ立

場からで男女が同權だからと云ふ立場から主張するのでは有りません。矢張男と女とは違ひます。女は母性の立場から、いろ／＼の法律の必要から又男は男の方面の仕事から女は母心から出發しなければなりません。男にはそれが氣が付きません。女が居るからには女としての聲を擧げ權利を持たなくてはならない。すべて親心が社會化し、國家化していろ／＼の運動となつて行くのであります。

かう云ふ風に考へて見ると女子は社會に立ちまして色々の仕事を分擔して行く覺悟を持たねばなりません。アメリカやイギリスでは大戰後直に女子が参政權を得ました。アメリカでは女が代議士となつて兒童法案が通過しました。母心が議會政治化したのであります。これも一つの社會的分擔であります。日本もだん／＼さうなりつゝ有るのであります。この機會に目覺めて立つのでなかつたら、今より進んで行き、改良して行き子供を立派に養育して行く事が出來ないのであります。

この際によくこれを理解して社會的責任を分擔して男女が共同して理想的な社會國家を建設したいと云ふ事を申し上げたいので御座います。

どうか皆様も折角御自愛なさいまして家庭の許す限り婦人の責任を全うされる事をお願い致します。だん／＼申し上げたい事も澤山ございますが皆様の御足も相當御痛みになつた事と思ひますから今日はこれで失禮致します。(喝采) — 文責在記者 —

第三章 展覧會バザー及び記念品

第一節 展覧會及びバザー

各種展覧會は第一日から三日間に亘り花々しく公開された。

一、本校生徒成績品

本校生徒の習字圖畫は北教室階上の一室に展べられ、裁縫手藝品は三教室を埋めて、殊に婦人の參觀者を以て終日満された。

二、本校職員製作品

階下の教室に軸物模型統計表刺繡三十餘種何れも職員公務の餘暇に成つたもの。中にも家事方面の食物とカロリーの模型による説明は目を惹いたやうである。

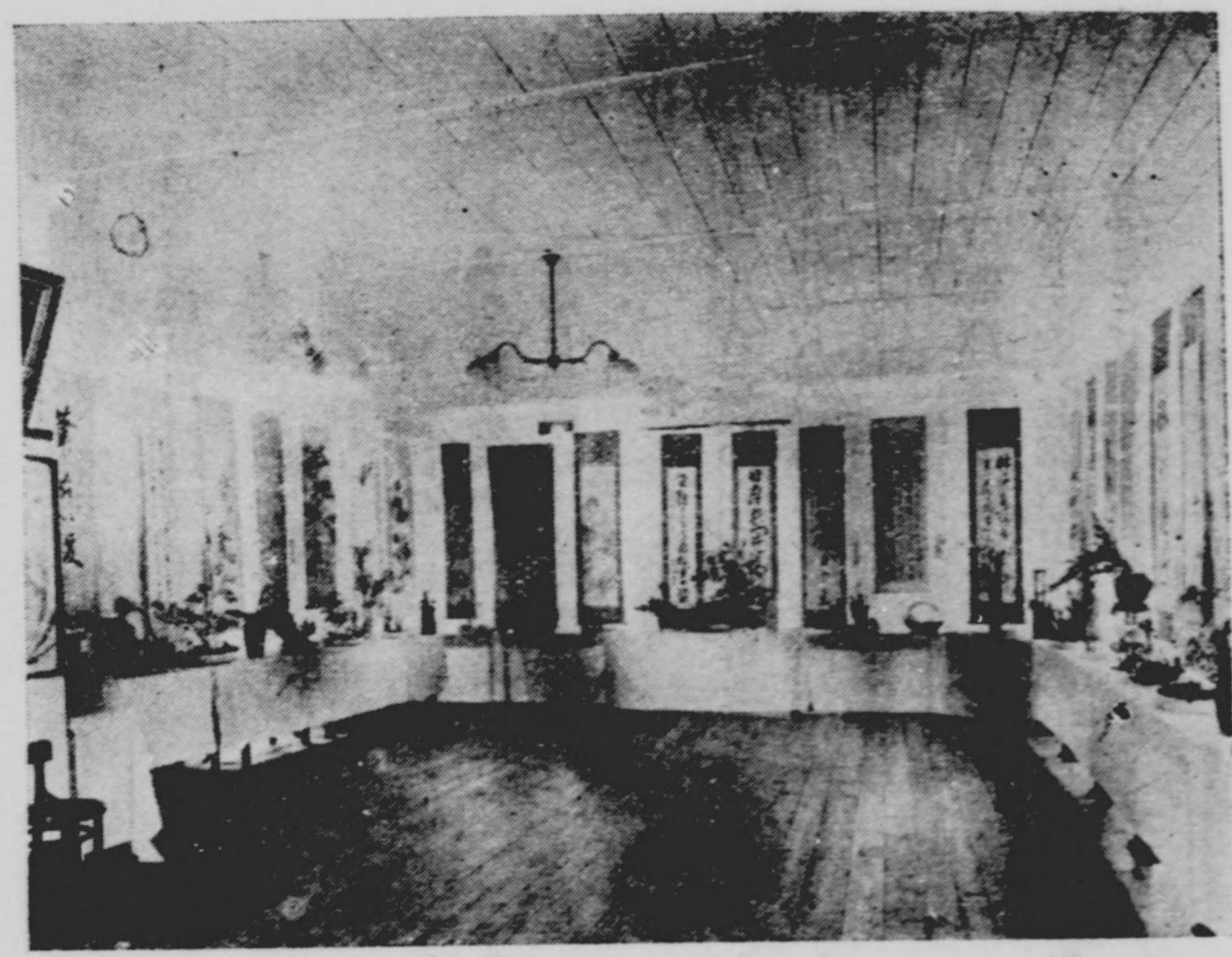
三、本校備品

主として理科方面の機械、それを生徒が運轉して觀覽に供し且簡単な説明書を添へた。

四、郡内小學校兒童成績品

今回の催に對し郡内小學校の協賛を求めた所各校共非常な好意を寄せられ、時日の短かつたにも拘らず多數の出品が集り、中にも手工品の如き數に於て大きさに於て驚くばかりの出品を見、且先生自ら出張して陳列される等の熱心振であつた。その爲に豫定の音楽教室に並べ切れず隣の一室を臨時使用するに至つたのである。因に出品校は

- 神樂、小川、春日部、芦田、久下、上久下、大路尋、大路尋高
- 吉見、新井、遠坂、和田、幸世
- 葛野、生郷、鴨庄、進修、沼貫



會 覽 展 念 記
 一花生と毫揮志有郡本一

尋、沼貫尋高、船城、黒井、前山、佐治、崇廣、三輪、竹田

兒童成績品出品規程

- 1. 習字 各學年一枚宛
 - 2. 圖畫 同上
 - 3. 手工 各學年二點以下 種類形狀等隨意
- 習字圖畫は各別に臺紙附一連としてそのまゝ陳列し得るやうにせられたし
- 職員製作品 種類點數形狀等隨意

五、生花

廣崎、片山、十倉三氏の熱心な御幹旋と御盡力により本館階上の一室には池坊、圖書館階上には未生流、階下には尚青流の何れも數十鉢が妍を競ひ粹を發揮し、有志揮毫の掛物と相映發して多大の感興を起させた。

六、郡内有志揮毫

特に人氣を博したのは郡内有志揮毫の展覽會であつた。本郡には多數の愛墨家がある。その彩腕を一堂に盛ることは極めて興味のあることと考へて着手しかけたが、上田確郎、安田栗郷、長谷川

成器の三氏は大いに賛意を表し自ら賛助員として夫々の方面に非常な幹旋を願つた結果、書に於て二一名三三點、書に於て一七名二七點、彫刻一名二點といふ多數に上り、それが圖書館階上階下に陳列され、生花と相映じて頗る幽邃典雅の別天地を現出した。

嘗て二十五周年に田艇吉氏其他の御厚意により田捨女遺墨を展覽したのと相並んで近來の名展だつたと思ふ。只場所や設備の不完全の爲に陳列方法が不充分であつたことは御寛恕を願はなければならぬ。

出品者氏名

畫の部

田艇吉	安田栗郷	藤原樂山	谷川寬
若生國榮	達摩水龍居士	前田廣治	赤井英夫
木寺青峯	辻誠逸	安田擴二	安田晚翠
中澤庭柯	足立觀山	奥村春岱	本城秋歩
福垣香歩	廣瀬松泉	松井拳堂	大木紡車
安田道夫			

書の部

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 義積誠一 | 芦田常太郎 | 有田明城 | 武田龍劍 |
| 片山喜之助 | 上田確郎 | 石橋青蓮 | 余田道夫 |
| 余田惠風 | 近藤博 | 松田氏夫人 | 長澤浪江 |
| 久松八郎 | 福垣香步 | 津倉校長 | 大木政太郎 |
| 久下村某氏 | | | |

彫刻の部

磯尾健次

七、バザール

展覽會と併せてバザーが催された。即ち裁縫手藝品部と食料品部とに分れ前者は北教室階上展覽室の間に主として生徒製作の簡単な手藝品それに理科でこしらへたベルツ揮發油が氣のきいたレッテル附の壘に盛られたのを加へて人足を惹いた。階下には是亦生徒自製の菓子を山と積んで大きな生徒賣子が客を呼んで居る。猶中庭に土産物の店を開いた。

中庭には天幕五張を設けて食事場とし同窓會の小母さん達の手料理を生徒の賣子が注文聞きに走る。いつも景氣がよい。それに音樂會映畫會には現場へ出張する程の熱心さであつた。

第二節 記念品

一、記念扇子

蕭洒な婦人用の扇子に一々校長先生の御揮毫を願ひ同窓會員全部に配附。

二、湯呑茶碗

來賓及び生徒への記念として調製した湯呑は蓋附の瀬戸物で外面に校歌を、蓋には本校の徽章を入れ、實には金、赤、藍で染め抜いた鈴蘭の圖案を配せるもの、婦女子用として極めてスマートな出來榮である。

三、記念エハカキ

來賓に頒つ外記念として實費で提供する爲に作つた記念エハガキは校舎全景、奉安殿、前庭と校舎の一部、職員生徒朝禮、飛行機上より俯瞰したる校舎の五枚を一組とせるコロタイプ着色版、包紙の圖案は本館の前面に伊吹の大樹を透して向ふに入船山の森と三重の塔を望んだもの奥村教諭の手に成る。

四、記念録

即ち本書のことで、豫約により實費で頒つことにした。

附記

かくて前後四日に亘る行事は滞りなく終了した。學年末學年始の仕事に續いて多忙な二ヶ月を經

た。生徒も展覧會やバザーの準備に日の暮に迫ることもあつた。同窓會員特に本部幹事やみどり會員、支部長の勞は多大であつた。一般に學校行事とはいひながら、對外的關係が非常に多かつたのであるが、追悼會には町内各寺院が生花には夫々の先生達が、展覧會には郡内有志及び小學校が何れも絶大なる厚意を寄せられ、特に柏原町一般及び商工會の後援がどれだけ賑ひを添へたかを思ふ時深甚の謝意を表しなければならぬ。猶知事の御臨場は本校に無上の光彩を放ち近藤前校長を始め舊職員の參列は記念の意義を深からしめた。多數來賓の參列は校運の隆昌を象るかと思はれて感慨が深い。其の他一般卒業生諸姉の援助——夫等の力が茲に此の行事を成功に導いたものである。我々は以上の諸賢に深く感謝すると共に、これより更に一層本校の發展に邁進しなければならぬ。

昭和七年十二月十五日印刷
昭和七年十二月二十日發行 (非賣品)

兵庫縣立柏原高等女學校松柏會

神戸市葺合區布引町二丁目二三

印刷所 株式會社白馬堂印刷所

